

真核株ゲノムデータ解析手順

1. `bbduk.sh` [version 39.01] を用いてアダプター配列のトリミング、低品質リードの除去を行いました。指定しているオプションは、`ktrim=r ref=adapters k=23 mink=11 hdist=1 tpe tbo qtrim=r rimq=10 minlength=40 maxns=1 minavgquality=15` となります。
2. `bbmap.sh` [version 39.01] を用いて、マスクされたヒトゲノムに対しリード配列をマッピングし、マップされたリードをヒトコンタミリードとして除去しました。指定しているオプションは、`quickmatch fast untrim minid=0.95 maxindel=3 bwr=0.16 bw=12 minhits=2 path=human_masked_index(*) qtrim=r trimq=10` となります。
3. `SPAdes genome assembler` [v3.15.5] を用いて、`isolate mode` でアセンブルを行いました。指定しているオプションは、`--isolate --disable-gzip-output -k 21,33,55,77,99,127` となります。
4. `seqkit` [v2.6.1] を用いて、(3) で取得したアセンブリ配列から1000塩基未満のコンティグを削除しました。
5. `funannotate` [1.8.17] を用いて、取得したアセンブリ配列から、遺伝子領域を推定しました。指定しているオプションは `--min_training_models 1` となります。
6. `QUAST` [v5.2.0] を用いて、取得したアセンブリ配列のコンティグ数、全長、GC含量などを評価しました。指定しているオプションは、デフォルトとなります。
7. `BUSCO` [v5.7.1] を用いて、取得したアセンブリ配列の完全性および汚染度を評価しました。オプションはデフォルトとなります。
8. `CAT_pack` [v6.0] を用いて、取得したアセンブリ配列の生物系統情報を推定しました。指定しているオプションは、`--only_official` となります。

(*) hg19_main_mask_ribo_animal_allplant_allfungus.fa.gz from <https://zenodo.org/record/1208052#.X1hBFWf7SdY>